

役に立つかもしれないシリーズ 9

「初級デジタルカメラ入門編」 岩井孝真（名古屋名駅RC）

今回は、デジタルカメラによる写真撮影の基礎をお伝えしたいと思います。

写真を写すとピントが思った所に合わずピンボケの写真になってしまったり、何を写したかったのかわからない写真になってしまった経験はありませんか？
ここを少し気を付けると写真がよくなると思うことをお話しします。

1. カメラの種類について

デジタルカメラにもいろいろと種類があります。（スマートフォンを除く）

①コンデジ（コンパクトデジタルカメラ）

一般的に持って歩くには便利なカメラ。カメラとレンズが一体になっている。

②ミラーレス（ミラーレス一眼レフカメラ）

ミラーレスカメラは、レンズを通して入った絵を一度センサーに取り込み画像に変換しています。

従って、ファインダー内であっても液晶画面を見ることになります。

ミラーレスカメラには、ファインダーが無く、カメラ後の液晶画面を見て撮影するタイプもありますので注意してください。また、一眼レフカメラにくらべ小型・軽量ですが、常に液晶画面を見ることになりまますので一眼レフにくらべバッテリーの持ちは短いため、撮影できる枚数が少なく200～800枚ぐらいになります。女性の街歩きなどに使われると便利でしょう。

③一眼レフカメラ

一眼レフカメラは、レンズを通った絵がミラーとプリズムを使用して直接見るようになります。ミラーレスカメラにくらべバッテリーの持ちは長く400～3500枚ぐらい撮影できますが、比較的重く大きいです。大きいカメラではボディだけで1,000グラムを超える物もあり本格派タイプの方にお勧めです。

ミラーレスと一眼レフカメラの大きな違いはカメラを通して見ている絵が、舞台鑑賞をテレビで見ているのか双眼鏡で直に見ているかの違いになります。

その他にもありますが、大きく分けるとこの三種類が一般的になります。どんなものを撮りたいかによってカメラを選んでいただければよいと思います。少し写真を楽しみたいのであれば、ミラーレスカメラ以上のレンズ交換ができるタイプをお勧めします。

2. カメラのモードについて

カメラのメーカーや種類によってモードダイヤルが多少違う場合がありますが、必ずついている基本を説明します。モードをうまく活用して撮影の幅を広げましょう。

AUTOモード — 全自動撮影モード

*すべてにおいてカメラが、撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。カメラになれていない方にお勧めします。ただし、カメラがすべての設定を行いますので、自分が写したいと考えている通りの画像にができないことがあります。

Pモード — プログラムオートモード

*被写体の明るさに応じて、カメラが露出=シャッタースピードと絞り数値（F値）を自動的に設定します。それ以外のポップアップストロボのON/OFFやISO感度・ドライブモードなどの細かい設定がAUTOモードより可能になります。

ゴルフのスイングを連続撮影で撮る場合など、露出部分（シャッタースピードと絞り数値）はカメラにまかせて、ドライブモードを連写モードに切り替えて撮影すると連続撮影ができます。

Aモード — 絞り優先モード

*絞りの数値は自身で設定をして、シャッタースピードをカメラが自動的に設定します。

※Pモードでのシャッタースピード以外の設定を自身で行います。

絞りを変えることにより写り方が変わります。一点だけにピントを合わせて奥行きのあるポートレート撮影などは、図1の様に絞りを数字の小さい方にしてぼかし効果を使います。また、集合写真のような場合は、図2の様に絞りを大きい数字にして全体にピントが合うようにします。

絞りの大きさの違いからくる、カメラに取り込む光の量を数値化したものがF値です。
F値を大きくすると絞りが絞られてレンズを通る光の量が少なくなります。

図1
絞りF2.8



図2
絞りF22



Sモード — シャッタースピード優先モード

* Aモードと反対で、シャッタースピードを自身で設定して、絞りをカメラが自動設定します。

* Pモードでの絞り以外の設定を自身行います。

シャッタースピードが速い・遅いで写り方が変わります。

夜景撮影をしたり図3の様な水の流れを表現したい場合などは小さい数字にします。

サッカーやモータースポーツなど動きのある撮影をおこなう場合や図4の様に水の流れを止めたい場合は数字を大きくします。

Pモードでお話ししましたゴルフスイングの連写撮影などは、シャッタースピードを速くすることにより、スイングがわかる写真撮影ができると思います。

あまり遅いシャッタースピードにすると手振れを起こしやすいので、夜景撮影などは三脚の使用をお勧めします。また、人物を撮影するときなどは、1/60以上をお勧めします。

図3
シャッタースピード
1/15



図4
シャッタースピード
1/2000



Mモード — マニュアルモード

*絞り・シャッタースピードを含めすべての細かな設定を自身で行います。上級者向けになりますので、初心者の方には、お勧めできません。

ISO感度の数字を大きくすることにより暗い場所でも明るく撮影しやすくなりますが、感度が上がるほど写真にざらざら感が出てきますので注意してください。

Pモードの撮影で、露出補正機能(+/-)使い暗かった場合は、(+)を明るかった場合は、(-)の補正をして調整してみてください。

シャッタースピードを変えて、桜の花に後ろから入る光を撮影した2枚です。図5の写真は、シャッター速度1/125で、図6の写真は、1/1000になります。

少し設定を変えることにより表現の幅が広がりますので試してみてください。

図5



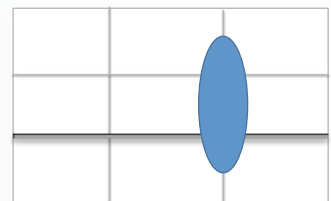
図6



3. 構図の作り方

写真の構図を決める時に人物を真ん中に配置しがちですが、画像をタテ・ヨコに三分割して、線の交差した4点に被写体にポイントを配置するとバランス取れて安定した構図が作れます。

特に人物を撮影するときには、まわりの空間を活かすことで味わいのある写真ができると思います。



4. ピントの合わせ方

顔認証機能がついていないカメラで、二人を撮影される場合に、つつい左右に人物を入れて撮影してしまうと人物のいないところにピントが合ってしまうピンボケになってしまいますので、どちらか一人にシャッターを半押しをしてピントを合わせそのまま構図をずらしてシャッターを焦らず押してください。シャッターを半押しすることによりピントが、固定されます。

ご参考にして頂き写真撮影を楽しんでください。